

パリテ登録団体へのグループインタビュー まとめ

資料4
西 東 京 市
男女平等参画推進委員会
平成30年2月19日

実施：平成29年10月30日（月）午前10時30分～正午

参加：3団体（NPO法人まちかど保健室、NPO法人生活企画ジェフリー、西東京市福祉推進協議会）

1. 男女平等推進センター「パリテ」の利用について

(1) パリテの立地条件について

- ・ 立地条件は悪いが車を停められるところが多くてよい。バスの本数が少なく、子どもがいると歩くのも大変であるため。
- ・ 日ごろからパリテにはお世話になっているので、恩返しをしたいという気持ちがある。事業はなるべくパリテを使おうとしている。会議も2ヶ月に1回はパリテで行おうとしたが、夜は使いにくく、立ち消えになった。

(2) チラシ設置への協力について

- ・ チラシをパリテに置きたい場合、ルピナスでは土日にチラシを受け取ってもらえない。9時から5時で置きに行くことが難しいが、ポストにも入れることもできないといわれているため、パリテのために別日を設けなくてはならない。また、宅配便で送るのはお金がかかる。
- ・ 公民館では必要事項を記入すると土日でも受け取ってもらえる。
- ・ 土日に受け取ってもらえるよう、住所、所在地など必要事項を記入するフォーマットを作っていたきたい。
- ・ チラシを受け取るだけ受け取ってもらいたい。

(3) 利用施設の予約について

- ・ 学習計画の活動日の広報をするためには、最低でも3ヶ月くらいないと、広報のための時間的余裕がない。
- ・ 市報で掲載するのは2ヶ月前であるため、予約できる期間を最低でも3ヶ月はほしい。

(4) 職員との連携について

- ・ 事業をするときはパリテを使って行いたい。以前、消防に関する事業について、平日ではない時間帯で職員さんに相談の対応をしていただいた。結果として、「協働」ということでタイアップして行うことができた。これは、職員さんのご理解をいただいたからできたことである。このような実績があるので職員さんが異動しても、どの職員さんにもご理解をいただいているため、今後も心配していない。
- ・ 職員の方が皆熱心で、協働で動いてくれていることを実感している。すごく助かる。

(5) ルピナス内の課同士の連携について

- ・ パリテまつりのチラシを3階の住吉老人福祉センターに置こうとしたところ、市の高齢者支援課を通さないと置かせてもらえない。課が別であるといわれると従わざるを得ないが、同じ施設内のものであるため、パリテまつりのチラシは例外として扱ってほしい。担当課同士の連携、コミュニケーションがあるとよい。

2. 男女平等推進センター「パリテ」の役割について

(1) 利用者とパリテの関わり方について

- ・ ヤングママの方にとってパリテはとてもよい場所である。パリテを利用するとき、職員さんからパリテのことについてお話してもらえるとよい。職員さんとのコミュニケーションが少ないが、ちょっとした説明などでも、そういうかわりがあるとその人たちの子どもたちがまた使うようになる。例えば、子ども食堂は西東京市内にもあるが、中高生も来る。場はあるので、「お友達にも言ってあげて」とアピールしてはどうか。せっかく来た人をどうつなげていくかということが大事である。

(2) 市民活動の応援について

- ・ 市で市民活動をもっと応援してほしい。個人的には繋がっているが、市民には繋がっておらず、市民にどうアピールするかが課題である。これまでも同様の意見が出ているが、取組みは進んでいない。実働としてどうすればよいのか、話し合う会議を開いていただきたい。パリテの役割を示してもらえれば、ボランティアでも手伝うこともできる。市民もまちの活性化のために意味のあることなら動く。

(3) さまざまな人を企画に取り込むことについて

- ・ 団体活動で個別にやっていくことと、一緒にやっていくことをいかに出していくか。そのために、企画に警察や中学校などを入れたい。入れないと仲間になれない。例えば、市内の中学校の生徒会長を集めて、人権をどう思うか他人事を自分のこととして考えてもらうことが大切である。情報誌を読んでほしい人を企画に取り込んでいくことを続ければ全戸配布の必要性がわかると思う。みんなを仲間にしていくことと、関係をとぎらせないように、コーディネートしてほしい。

(4) 連絡会について

- ・ パリテなりの市民のつなぎ方を考える必要がある。市民同士の連絡会がないのであるとよい。職員さんが変わっても、連絡会がしっかりしていれば、新しい職員さんに教えることができる。連絡会では若い人がリーダーをするなどしてほしい。
- ・ 若い人がどう繋がるかを含め、懇談会をしてほしい。新しい連絡会が必要であり、世代を下げて意見を聞いてほしい。若い人はメールやネットでのつながりを持っているが、若い人たちにもどのような形でつながれるか聞いてみてほしい。

(5) 公民館との関係について

- ・ 公民館の職員は利用者とのつながりをつくるためにとても努力している。社会教育への情熱がある。公民館のヤングママたちがどう活性化しているかという点、公民館の人たちはママたちと仲良くなる技術がすごい。スタッフの人たちが利用者とのつながりを自分たちでつくっていくことが大切である。
- ・ 事業のあとに、自主グループをつくれるようにすることは大事である。公民館は、自主グループをつくる前提で意図的に事業を進めている。
- ・ 公民館とパリテは成り立ちが違うので、公民館の人とパリテの職員が同じ仕事をするということとは違う。しかし、社会の意識を高めることは同じであるため、役割をすみわけの必要がある。
- ・ パリテと公民館との差別化を図る必要がある。パリテの役割は男女の人権を暮らしに根づかせることである。

3. 情報誌「パリテ」、広報について

(1) 広報の必要性について

- ・ 男女平等の課題について市民に共感していただくためには、具体的に問題提起をし、些細なことを情報として提供しないといけない。問題提起をし、情報提供をし、パリテという受け皿があるということを知ってもらうことは大事である。
- ・ 市民と団体は動いてはいるが、運営委員会や推進委員会が別の動きをしていてつながっていない。市民は皆、力を持っているのでパリテでつなげる。パリテがどのようなことをするのが大切である。

(2) 他広報との連携について

- ・ 公民館だよりの一角に載せてもらうことはできないか。その一角で DV 相談に関する情報を載せるのはいかがでしょうか。

(3) 教育機関への広報について

- ・ 子どもたちにも差別などに対する感性を磨いてもらうことが大事。
- ・ 学校では、まずは先生が日常的に発する言葉が子どもたちにひびいているかが大切である。団体の活動でも、担当者から「～やってください」といわれるばかりで、担当者が子どもや家庭と向き合っていない。担当者が子どもや家庭と向き合うことが大事である。子どもたちにとって辛いことがあったときなどに、パリテが逃げ場となることや相談ができるという認識を高めるためにも広報は大事である。
- ・ これまでも情報誌パリテを全戸配布してほしいと伝えているが、教育機関への配布をしてほしい。社会のゆがみを解消するには、子どものころからの気づき大切であるが、社会のゆがみを自分の中に秘めて、親の姿をモデルにして生きていくことになってしまう。みんな同様の人権をもっていることを伝えることが大切。年に1回くらいは年代に即した出前講座をしてほしい。そうすることにより、これからの男女平等の種をまいてほしい。その面で、教育機関に定期的に情報誌を配ることは大切である。
- ・ DV の相談など充実していることが知られていない。

(4) 市民まつりへの参加について

- ・ 市民まつりなどの大きいイベントで出展してアピールするとよい。市民まつりは老若男女、人が多い。

4. パリテまつりについて

(1) パリテまつり実行委員会について

- ・ パリテまつり実行委員会に働いている人が入るようというご意見もあるが、働いている人もたくさん活動している。団体も参加している。以前は土曜日に集まりをするなどしていた。しかし、単年度でメンバーも変わるため、その都度内部で考えることとなる。それでよいと思う。
- ・ 活動している人はいくつもの活動を掛け持ちしているため、まつりのために動ける人がいない。展示をしたこともあるが、展示物をつくることも大変である。

(2) 開催時期について

- ・ 開催時期についてのご意見があったが、パリテまつり委員会が6月に始まり、3月に報告書を提出するとなると、2月になってしまうのではないかと。

(3) 多世代の連携について

- ・ 一線で活躍されている方は何団体にもかかわっている。次の世代にネットワークを広げたいと思うが、若い人は若い人で別のネットワークを広げている。誰かがしかけないとつながらない。来館した人をどう引き止めるか。つなげるにはどうしたらよいか。

(4) 三施設合同でのまつりの開催について

- ・ ルピナス全館でのおまつりについて、毎年提案しているが、実現しないということは実現ができないことなのかと思う。しかし、せめてまつりだけでも合同となるとよいと思う。